

## 令和5（2023）年度 日本体育大学 入学式（学長式辞）

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。日本体育大学の教職員を代表して、皆さんを歓迎するとともに、心よりお祝い申し上げます。また、保護者ならびにご家族、関係者の皆さま、本日は誠におめでとうございます。

3年前から始まった新型コロナウイルス感染症の禍害は、皆さんの高校時代の活動の多くを制約するという、未曾有の事態を引き起こしました。皆さんは、そうした困難な状況の中で、本学に入学されたわけですから、喜びもひとしおのことと思います。

さて、皆さんが晴れて入学した日本体育大学は、今から132年前の1891年に日高藤吉郎先生によって設立された体育会がその始まりです。132年前と言えば明治時代の中頃ですが、その当時は、急速な近代化によって合理主義思想が社会に定着していった時代ですから、「からだ」の動かし方についても医学的に合理性のある運動でなければ身体教育とは認められない時代でした。つまり本学は「からだ」への教育を、その始まりとしています。言うまでもなく「からだ」は私たちにとって、最も根源的なもので、誰もがこの「からだ」で生き、活動し、「からだ」によって他者や社会と交流します。また、さまざまな感覚器官をそなえた「からだ」は外部世界を知覚し、認識するための媒体でもあります。ところが、この「からだ」は誰もが同じ構造と機能を持っているにもかかわらず、意識と感覚を通じて把握する仕方は、個人によって、あるいは社会によって、また、時代によって異なっているのです。

本学は創設以来、一世紀以上に渡って「『からだ』を通して、感じ、学び、考え、伝える」といった学問スタイルを志向してきた大学です。今では、スポーツする「からだ」の構築や「からだ」を通じた教育や指導、伝統的な「からだ」の継承、商品としての「からだ」の発見、健やかな成長を支える「からだ」の支援、そして「からだ」への医療実践などを教育の中に展開しています。本学は「身体にまつわる文化と科学の総合大学」でありますから、皆さんがこれから学ぶ大学の4年間は、その大半が「からだ」に関連する学問との出会いになります。実技科目や実習科目のように「からだ」についての実践と講義科目のように「からだ」についての科学の両面を学ぶというわけです。この学びを持って「からだ」に関わる世界の広がりを知っていただきたいと思います。

ところで、「からだ」を動かしながら学ぶものの中には、さまざまなスポーツも含まれます。先日、ワールド・ベースボール・クラシック（WBC）が6年ぶりに開催され、侍ジャパンが14年ぶり、3回目の優勝を果たしました。本学の河野徳良先生もヘッド・トレーナーとして帯同し、選手たちを支えました。

さて、大会を思い返してみると、私たちは毎日行われる一次ラウンドに釘付けとなりました。また準決勝のメキシコ戦では、9回裏の村上選手の逆転サヨナラ安打まで、本当にヒリヒリする最高の試合を見せてもらいました。決勝のアメリカ戦では、若き投手陣の気迫のこもった継投と終盤のダルビッシュ選手から大谷選手へのリレー、そしてクローザーとしての大谷選手の魂の投球によって、日本中を歓喜の渦に包みこみました。WBCを通して私たちは、改めてスポーツの持つ力のすごさを感じたわけです。侍ジャパンの活躍を通して、私たちは、夢を持ちつづけることの大切さ、全力を尽くすことの大切さ、諦めない姿勢の大切さ、あるいは人々の心をつなげる力など、人間の可能性がスポーツによって引き出される瞬間を目の当たりにしたわけです。

スポーツが19世紀の後半に登場して以来、その役割はどんどん拡大してきました。侍ジャパンが見せてくれた私たちの心に訴えるような役割は、元々スポーツに備わっていましたが、これらに加えて、今では経済効果なども取りざたされるようになってきました。今回の優勝によって経済効果は600億円に上るという試算も出されています。このようにスポーツは様々な面から、人々に、社会に、影響をあたえます。皆さんには、こうしたスポーツの価値や役割、またスポーツの持つ影響力についても学んでいただきたいと思います。

新入生の皆さんには、大学生の時代だからこそ、できること、やってもらいたいことがあります。一つ目は、積極的に人とのかかわりを持って、友人を作り、交流を広げてもらいたいということです。大学時代に創り上げられる人間関係は、固いきずなで結ばれるとともに、広いつながりを持つものです。本学は日本全国、あるいは国を超えて学生が集まっていますので、人種、国籍、性別、年齢、障がいの有無を超えた、多様な価値観や考え方や触れあうことのできる環境があります。また交換留学生として海外に足を運ぶことも価値観を変えることのできる良い機会になります。多くの友人を作るということは、多様な価値観に触れるということでもあり、また一生の財産にもなります。是非とも積極的に多くの友人を作ってください、自分自身の世界を広げていただければと思います。

二つ目は、やはり日体大に籍があるからには、何らかの形でスポーツと触れ合い、できることなら学友会のクラブで、とことんスポーツに打ち込んだり、さすがにそこまではできないというのであれば、できる範囲でスポーツと関わり合いを持つことをおすすめします。「からだ」を通して学ぶということは、「からだ」が様々なモノを理解するための感覚器官になるということですから、この感覚機能を高めることは必要となります。これによって多くのことが吸収できるからです。

三つ目に、授業には積極的に出席してください。「からだ」で知ること、つまり、「からだ」で感じたり、覚えたり、「できる」ようになることは、頭でわかることとは別次元での理解の様態となるわけですから、実技、実習といった科目が本学の授業実践において非常に重要であり、中心的なものとなります。「からだ」で「できる」ようになるためには繰り返しが必要です。しかし、これだけだと経験主義で終わってしまいます。こうした経験を論理的に支えてくれるのが講義科目です。最高学府としての大学は、学問の場であり、知的探求の場でもあるわけですから、「からだ」を通して理解したことを、講義の内容と連動させることで経験が科学的知見によって説明できたり、補完されたりすることになります。こうした関係を見ていくと実技や実習科目と講義科目との関係、つまり実践と科学との関係は、本学の教育において車輪の両輪のような関係、あるいはコインの表裏の関係にあるわけです。こうした「からだ」で「わかる」ことの醍醐味は、本学での授業を受講しなければ味わうことができないと思います。どうぞ大学での授業を堪能してください。

人生100年時代と言われるようになりましたが、その中で大学に在籍する期間はほんの一瞬の時間です。しかし、この大学生という時間は、間違いなく皆さんの人生を彩らせ、方向付ける重要な期間となるでしょう。自分自身の目標をしっかりと持って、一歩ずつ進んでいくことで、夢の実現に近づくはずです。学生生活の中で、今までに出会うことのない世界と繋がりを持ち、一回りも二回りも成長することを期待しています。日体大

は、皆さんのこれからの人生を変えることのできる大学です。

最後に、本学での学生生活が皆さんにとって、実り多く、充実したものになるように、お祈りし、私の式辞といたします。

令和5年4月3日  
日本体育大学 学長 石井隆憲